

【環境に配慮した取り組みの紹介】

NEXCO 技術を用いた名古屋市内の公園での郷土種樹木の保全活動について

NEXCO中日本では、新東名や圏央道などの自然豊かな地域を通過する区間で、地域性苗木¹を利用して、生態系の保全に努めています。

地域性苗木は市場性が低く、苗木育成では種子の採取や選別、発芽促進方法などで高度な技術が必要になります。NEXCOでは現在までに、約70万本の地域性苗木を育てました。

NEXCO中日本の**経営施策である「地域連携や環境・持続可能社会への貢献の推進」の取り組みの一環として「生態系保全」「地域性苗木育成」の技術を高速道路以外でも活かす活動**を、今年の5月から開始しました。

活動内容は、名古屋市内の公園などで採取した郷土種樹木の種や枝から地域性苗木を育て、名古屋市内の緑地に植えるものです。

活動を行う協議会のメンバーは「なごや東山の森づくりの会」、「戸田川みどりの夢くらぶ」、「なごや森づくりパートナーシップ連絡会」のNPO団体と環境省中部環境パートナーシップオフィス、名古屋市緑政土木局、財団法人名古屋市みどりの協会です。

5月に種を蒔き、6月には枝の挿木を行い、発芽が確認されるようになりました。

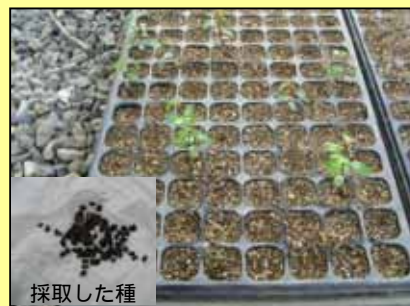
今年の秋頃には多くの方に参加していただき、種の採取を行う計画です。

育成された地域性苗木は、2010年10月に名古屋市で開催される**COP10のパートナーシップ事業**などを通して、名古屋市内に植栽する計画です。（計画では約1000本の地域性苗木を活用）

当社は今後も引き続き、自然環境に配慮した道路（エコロード）づくりを進めます。



2009.6.22 東山の森での枝葉の採取



2009.6.8 種子の発芽（マメシ）



完成品イメージ
地域性苗木



2009.7.21 挿木の発芽（マルバノキ）



2009.7.10 ポット植替え（マメシ）

¹高速道路が通過する地域に自生する郷土種樹木から種子等を採取して、緑化技術センターで育成した苗木のこと